



6月に入り、雨の日も多いですが、暑くなってきましたね。

梅雨が明けると夏本番!!!

今年も感染対策や熱中症対策をしながら、プール、水遊びが出来るように計画しています。

子どもたちが、元気に楽しくプール、水遊びが出来るように注意深くお子さんの体調を見てあげてください。

夜更かしをしないで、
睡眠はしっかりとる

病院で治療を受けている場
合は、水遊びができるか
医師にも相談ください

園帽子を被ります
(忘れると入れないこ
ともあります)

朝ご飯は必ず食べましょう

手と足の爪を短くしましょう
耳そうじをしておきましょう

毎日お風呂に入り、身体や髪の毛を
しっかり洗い、清潔に保ちましょう



こんな時は、プールに入れません!!

こんな時は、水遊びもできません

- 腹痛や吐き気、下痢などでおなかの調子が悪い時
- じくじくした傷やとびひがあるとき
- バンドエイドや絆創膏を貼ったままの時(虫パッチ等も✕)
- 目が充血していたり、目やにが出ているとき(目の疾患があるとき)
- 耳の痛みがあったり、外耳炎や中耳炎にかかっているとき
- 体調が悪く薬を服用しているとき
- 咳止めシールを貼っているとき
- 朝ご飯を食べていないとき
- 37.5度以上の発熱から24時間経過していないとき
(38度以上は解熱後24時間は登園を控えてください)
- 咳や鼻水の症状の強い時

***保護者の方が入れると判断された場合でも、
その後の子どもの様子によっては、担任が判断して
プールに入らないこともあります**

水いぼについて

どうやって感染するのか？

「肌と肌が接触する機会があれば、水いぼは他の人に感染します」。そのため、
「兄弟同士でお風呂に入っていたら、水いぼが兄弟にも感染した」
「腕の内側に水いぼがあったが、同じ側の胸に感染した」
といった事例はよくあります。

特に、水いぼを引っかいた手を清潔にしないで、自分や他の人に触れたり引っかいてしまうと、感染が広がりやすくなります。また、大人もアトピー性皮膚炎や重度の乾燥肌の場合、水いぼが感染しやすくなるため、同様の注意が必要です。

プールで水いぼは感染するのでしょうか？

これに関しては、厚生労働省が日本皮膚科学会・日本小児皮膚科学会の統一見解を受けて、
「プールの水では感染しないので、プールに入っても問題ない。ただし、タオル、浮輪、キックボードなどを介して感染することもある」
と結論づけています。

水いぼが感染する可能性を低くするためには、肌と肌をこすり合わせないようにすることが重要です。

そのため、「水いぼがある部分をラッシュガードなどで覆っていただければプールに入っても問題ない」とする施設が多いです。

(参照：保育所による感染対策ガイドライン 2018年)

上記の通り、プールの水では感染しないと言われており、水いぼを持つお子様も一緒にプールに入ることはできます。

ただ、肌と肌がこすり合わないよう、

水いぼが出来ている部分はラッシュガードで覆ってください。

ラッシュガード等で覆えない水いぼがある場合接触による感染の可能性が高いため入れません(皮膚科を受診し相談してみてください)

掻きむしったりすることを軽減するために爪は短く切ってください。

そして、水いぼに感染しないために.....

肌のケアをしっかりしてあげましょう

夏でもお子さんの肌はデリケートなので、入浴後などしっかり保湿をし、肌トラブルがあるときは早めに皮膚科の受診をするようにしましょう。

かきむしったり等の肌の傷を防ぐため、爪を短く切りましょう。